
○国際交流員のコラム○

●文化の力●

鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）

皆様は、「ダイナマイト」という曲をご存知でしょうか。

これは、今世界中で人気を集めている韓国アイドルグループの BTS(防弾少年団)が、昨年 8 月にリリースした曲のタイトルです。

BTS は、2013年にデビューし、各局の音楽番組への出演などを通し、彼らの実力をアピールしました。しかし、最初から人気を博したわけではありません。当時、韓国には、「3大芸能事務所の SM・YG・JYP を除き、中堅芸能事務所の所属アイドルが成功するのは、なかなか難しいだろう」という認識が広まっていました。なぜかという、いくら頑張っても中堅に与えられる番組への出演機会は、大手に比べると極端に少なかったためです。そんな訳で、中堅芸能事務所の BTS が成功するとは、誰も想像すらしませんでした。それでも、BTS は、彼らならではのやり方で、コツコツと活動を続けていきました。例えば、ツイッターやユーチューブなどの SNS を存分に活用し、舞台裏や控室での茶目っ気たっぷりの姿、そして、どこにでもいるような人間味あふれる人柄などを見せつつ、3大芸能事務所とは違うやり方で PR をしたのです。今は、誰もがしている PR といっても過言ではありませんが、当時は、かなり斬新な PR 方法でした。少なかった番組への出演機会を SNS の活用で補った結果、むしろこれが韓国をこえ世界で注目を集めるきっかけとなったのです。そして、数年間のたゆまぬ努力の末、韓国語で歌われた曲が「米ビルボード Hot 100」で首位を獲得する、史上初となる功績も残しました。

この人気に支えられ、数か月前からは、コロナの影響で一時期中止となっていた国際交流員による出前講座の依頼が、再び来ています。派遣申請書の要望には、「最近、K-POP に興味のある生徒が多く、韓国の地理や文化・食などについて紹介してもらいたい」と書いてあります。このような BTS をはじめとする K-POP 人気の高まりが、韓国への興味に繋がるのは、韓国人としても、国際交流員としても、実に嬉しいことです。

文化の力は、思ったより強く、私たちは、文化を通し、国や人種・世代などの壁をこえ、お互いの理解を深めるとともに、多様性を認め合う社会の実現もできます。

十数年前、偶々見た 1 本の日本ドラマが、今の私をつくったといっても過言ではありません。私は、大学で中国語を専攻し、当時は、中国ドラマにハマっていました。中国ドラマについて色々調べたとき、ある関連検索ワードが、私の目を引いたのです。それは、日本ドラマでした。そして、日本ドラマにハマり、好きすぎて、夢中だった時期もあります。当時の日本ドラマは、私にとって、現実からの逃げ場でもあり、癒しを与えてくれる存在でもある、とても大切なものでした。これがきっかけとなり、年月を経て、編入し日本語を専攻しました。既にご存知かと思いますが、今は、県国際交流員として日韓交流に係る活動をしております。

そうですね。あの頃の私は、将来の自分が、鹿児島県国際交流員になるとは、想像もつきませんでした。偶々触れた日本文化が、新しい夢を見つけ、叶うようにしてくれたのです。

最近、初対面の県民の方とでも、お互いの文化への興味を示し合うだけで、一瞬で心の距離が縮まることを実感しています。今は、厳しい状況にある両国ですが、文化を通し、わずかでもお互いを理解できる日が来ればと思います。

私の胸に刻んでいる日本ドラマのセリフといえば…

「何をやってもうまくいかない時は、神様がくれた長いお休みだと思って、無理に走らない、焦らない、頑張らない」

— ロングバケーション(1996) —